

第20回特別展

明治日本を生きたフランス人画家

ジョルジュ・ピコー展

明治15年（1882）に、浮世絵などの日本美術に憧れて来日したジョルジュ・ビゴー（1860～1927）は、自由民権運動・条約改正・日清戦争などが続く激動の明治の日本で、風刺画家、風俗画家、そして雑誌記者として活躍し、滞在した18年間に多くの作品を残した。

この展覧会では、日本滞在中のみならず、パリでの作品を含め、油彩・水彩・スケッチ・銅版画・漫画・ポスターなど生涯の主要作品のなかから約400点を出品し、「明治日本を生きたフランス人画家」ジョルジュ・ビゴーの全体像が理解できるように展示した。



※この図録は完売いたしました。

会期／昭和62年8月8日(土)～9月20日(日)

会場／特別展示室1、南蛮美術館

主催／神戸市立博物館、読売新聞大阪本社、読売テレビ放送、美術館連絡協議会

後援／文化庁、フランス大使館、兵庫県教育委員会

開館日数／38日

入館者数／27,012人

出品件数／389点